

室蘭市立みなと小学校

指定年度：H29～
児童数：469名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 目的・目標・方策、システム及びゴールの明確化と共有化

目標や方針として示した「価値」としての体系を実践という「行為」の体系に組み替えて職員に示すことにより、組織的な学校改善を推進することができる考え、毎月の校務部会の前に「今月の重点と方策」として、

- 学校・学級経営の重点
- 今月の危機管理
- 各部の重点と具体的方策例

の3点を整理した文書を教頭が作成・配付し、それに基づいた教育計画を立てた。

令和2年度 各月の重点と方策【12月】

学校経営の基本 ～スローガン～ 「楽しくなければ学校じゃない！」 ～昨日の自分に負けない！ ～一人一人の伸びを確かに見取るチャレンジ～	
①2学期の学年学級経営・分掌業務等振り返り、成果と課題を踏まえて3学期の具体的な取組とその方策の明確化を図る。 ②学校評価に係る作業を通じて教育課程全体の見直しを図り、質的向上を目指す。 【危機管理】 ☆新型コロナウイルス・インフルエンザ対策等、児童の健康管理の徹底 ☆冬型の事故防止に向けた事前指導の徹底 ☆働き方改革を推進した適切な勤務（勤務時間の短縮…冬期休業中は毎日定時退勤日）	○次年度に向けた教育課程編成作業の手順について職員に示し、作業に着手する。 ○児童個々に応じた学力の向上及び家庭休業中の学習等の充実 ○児童個々に応じた学力の向上及び家庭休業中の学習等の充実の進捗を図る。 ○校内研究授業を通じた成果と課題の明確化 ○研究授業で出された意見を集約し、今年度の研究の成果と課題を明確化し、研究の充実を図る。 ○学校公開日（1月29日）に向けた準備（教頭・主幹と連携） ○当日の準備の確認及び公開日の告知を行う。 ○冬型の事故防止等への注意喚起をはじめ、「自分の命は自分で守る」意識を持たせる。
重 点	方 策
○次年度の教育課程編成に向けた準備 ○学力向上に関わる取組の充実及び冬期休業中の学習等の充実 ○校内研究授業を通じた成果と課題の明確化 ○学校公開日（1月29日）に向けた準備（教頭・主幹と連携） ○冬型の事故防止に向けた指導の徹底	○次年度に向けた教育課程編成作業の手順について職員に示し、作業に着手する。 ○児童個々に応じた学力の向上及び家庭休業中の学習等の充実の進捗を図る。 ○校内研究授業を通じた成果と課題の明確化 ○研究授業で出された意見を集約し、今年度の研究の成果と課題を明確化し、研究の充実を図る。 ○学校公開日（1月29日）に向けた準備（教頭・主幹と連携） ○当日の準備の確認及び公開日の告知を行う。 ○冬型の事故防止等への注意喚起をはじめ、「自分の命は自分で守る」意識を持たせる。

【各月の重点と方策（12月）】

② 温かい人間関係を基盤とした職員室づくり

若手教員を「メンターチーム」として組織し、「させられる研修」にならないようメンターチームのリーダーと主幹教諭の連携の下、月に1度実施している。計画的な推進と内容の充実を図るため、今年度から主幹教諭をアドバイザーに位置付け、「Zoom 利用体験」、「みなと小体操」、「通知表所見道場」、「TTから見た学級改善のヒント」等の研修を実施した。

また、「いつでも、誰にでも相談できる雰囲気づくり」に努めることで、風通しのよいコミュニケーションが生まれ、ベテラン層やミドル層の教員にとっても自己の実践を振り返るよい機会につながった。



【メンター研修の様子】

③ 教員の経験年数に応じた育成計画

授業や学級経営の在り方をはじめ、経験年数に応じた教員の資質・能力の向上を目指した実践的な研修と相談体制の構築に取り組むとともに、昨年度視察した埼玉県の学力調査に基づいた「一人一人の伸びを見取る」取組を参考に今年度の授業づくりを進めた。

加配教諭による全学級のTT及び習熟度別指導の中で、授業改善の視点を踏まえて助言することで、授業改善につなげた。

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

- 「今月の重点と方策」の提示により、取組に対して目的や目標が明確化されたことで、各分掌における経営参画意識の向上が見られた。
- メンターチームのリーダーと主幹教諭の連携により、先輩教員を講師にメンターチーム研修が実施され、若手教員のスキルアップにつながった。
- 教職員アンケート「指導力の向上」については、肯定的回答が83.3%（昨年度78.2%）と増加しており、多くの教員が若手教員の育成及び自己の指導力の向上に努めることができた。
- 授業改善に関わる教職員アンケート「楽しい授業を行っている」については、肯定的回答が5.2ポイント減少しており、今後も児童の意欲を高める授業づくりを進める必要がある。

